

第 39 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

- 1 日 時 : 令和 7 年 2 月 19 (水) 14:00~16:10
- 2 場 所 : 総務省 8 階 第 2 特別会議室
千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎第 2 号館
- 3 出席者 : (委員)
 - ◎黒沢 文貴 (東京女子大学名誉教授)
 - 田家 修 (恩給審査会委員)
 - 兼川 真紀 (弁護士)
 - 亀井 昭宏 (早稲田大学名誉教授)
 - 斎藤 靖二 (公益財団法人日本博物館協会評議員
一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員)
 - 名越 健郎 (拓殖大学客員教授)

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

(総務省)

 - 佐藤 紀明 官房審議官
 - 黛 孝次 大臣官房総務課管理室長

4 議事次第

- ・ 令和 6 年度平和祈念展示資料館運営業務実施 (見込み) 報告について
- ・ 令和 7 年度平和祈念展示資料館運営業務計画 (案) について

5 議事要旨

令和 6 年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書 (見込み) を委託業者が報告、質疑応答が行われた。続いて、委託業者が令和 6 年度平和祈念展示資料館運営業務計画 (案) について説明、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 昨年 of この会議で色々な指摘を受けて、資料館でどういう対応をされたのか。またその会議の際、実物資料をケースに入れずに展示されている点を指摘したが、その後改善されたのか。
- コロナ前の来館者と比べて若い世代が多くなっているというのは良いこと。一方でコロナ禍以降、来館者数が戻っていないという印象を受ける。

- 広報については分析が必要で、資料館のフォローアップの解析や広告による効果を測定・分析し、その経年変化を知りたい。
- 若い世代への継承が大事で、その基本的な部分を継続してほしい。館外の業務を含めて次の世代に伝えていくという本来の仕事を、特別なイベントに頼らず、通常業務を継続してやるのが非常に大事なことである。
- SNSをきっかけに来館につながっている実感はあるか。SNSの分析を数字で把握できているか。
- 外国人の来館者が増えているが、多言語化への対応はどうか。
- アジア系の観光客も増加している中、中国・韓国の観光客だけでなく、アジア系の来館者をターゲットにした働きかけがあってもよいと思う。
- 開館以来 25 年変わらない常設展示（人形展示）は時代にそぐわないのではと感じる。改めて展示の在り方を考える時期なのではないか。
- 3つの労苦の扱いについて、バランスが難しいと思うが。抑留の扱いが多いように感じる。伝えにくそうな兵士とかを今後どう伝えていくか、考える必要がある。
- WEB を使いこなす若い世代の知識と技術を活用するなど、彼らのアイデアをくみ取るようなしくみやシステムが構築されるといい。
- 資料館の目的が若い世代への継承ということを考えると、中学・高校・大学の若い世代に積極的に関与してもらおう働きかけが重要である。
- 現在構築している全国関連施設ネットワークの 13 館について、協働して発信していこうということは非常に重要なことである。しかし、この活動自体が博物館関係者に周知されていないようだ。この全国関連施設ネットワークがどう展開していくのか、例えば「博物館研究」などへ投稿するなど、宣伝広報をしていくのも一つの在り方である。
- 今年は戦後 80 年ということで、来年度は特別な年度ともいえるが、現時点で来年度の企画に特別に具体的な計画が立てられていないような感じを受けた。
- 資料館の狙いとしては、いかに若い世代に館の訴えたいことを理解して

いただくかということであり、若い世代との交流や学校との連携強化というのは、今後も力を入れて取り組む必要がある。

- 小学6年生で歴史分野の授業が始まるので、そのころから働きかけるのがよいのではないか。
- 生徒・学生の成長年度に合わせて、何をどういうふうに見てもらうか、きめ細かくその世代向けに、あるいは学校の先生向けにという形で継続的に提供していくということが必要ではないか。
- 実物展示については実物が持っているインパクトは大きい。どこがどういうふうに刺さるかというのは個人にもよるが、実物を見せるというのものもあるし、ビジュアル的な見せ方、語り部と学芸員の方の対話的なことで進めていくなど、一方通行にならないような、あるいは、聞いてもらえるような伝え方というのにも必要になってくるのではないか。
- 全国関連施設ネットワークの連携を活かして各館がどういう工夫をされているのかということも参考にしながらやってもらいたい。
- 世界情勢が変わってきている今、これまでどおりの平和学習も変わる必要があるのではないか。そのあたりの問題意識を持つ必要がある。
- 資料館は難しいテーマを扱っているため、コンテンツの表現として見せ方がきれい過ぎるのもどうかとか、あまりに生々し過ぎると子どもによくないなど、色々な問題、懸念は起こってきている。
- アドバイザリーボードで各委員からの意見に対して、次年度の運営にどう活かされたのか、レスポンスが欲しい。次回の会議では対応状況を報告する場の検討をお願いしたい。

本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
暫定版であり、今後、修正する場合がある。